

## 「土井」ため池 ハザードマップについて

### 1. 背景

2018年の西日本豪雨、及び、昨年の長雨豪雨の際に、老朽化したため池の災害リスクが、指摘されるようになりました。

昨年の長雨豪雨では、安佐南区山本地区のため池に、土砂が流れ込んで、影響を受ける地域に、避難指示が出されました。

広島県では、ため池の総点検をして、決壊が起こった際のハザードマップの作製作業に入り、影響を受ける可能性のある世帯に、ため池ハザードマップの配布をはじめました。

### 2. 「土井ため池」

「土井ため池」は、寿団地にあって、広島市が管理し、地元で管理業務を委託しています。現在も、灌漑用のため池として、使われています。

普段は、貯水量を調整していて、6割程度の貯水量にっていて、豪雨になった際にも、すぐに満水にならないように管理しているそうです。

### 3. 下地地区への影響

土井ため池が決壊した場合、中畑川の支流の宮ノ谷川から、中畑川を流れ、安川に流れ込むことになります。

中畑川は、下田呉服店の横にある水路のようなところですが、実は、れっきとした川です。また、伴駅近くでは、アストラムライン沿いの道路の下を流れています。

このため、決壊して流れてきた水は、この道路下の水路では捌け切れず、溢れ出る影響で、1班の8世帯、2班の5世帯（+は一とひるず、ビラクレストの一部）に、20cm以下の浸水の危険性があります。

### 4. 下地地区の防災対応

ため池ハザードマップは、ため池が満水時に大地震の影響を受け、瞬時に全壊するという、最も不利な条件でシュミレーションされています。

普段は、満水状態になっておらず、下地地区は、流水地域の末端であって、流水速度も遅くなっていると思われます。

また、想定される浸水高さが、20cm以下ということですので、広島県の担当者の方は、避難する必要はないと話されていました。

当該世帯に、こういったリスクが存在することを、周知していただくということだけで、本件の下地地区の防災対応は、良いと考えます。

下地町内会 令和4年4月作成